

中央消防署移転整備事業

基本プラン説明



中央消防署の現状

- ① 昭和40年竣工の建物は老朽化が著しく、消防署として求められる耐震性も備わっていない。そのため、大震災時に建物に損傷が出た場合、消火、救急、救助への出動に支障が生じる。
- ② 昭和40年竣工の建物は、現在の消防力に対応しておらず、車庫内に車両が入らない、はみ出るという支障が生じている。また、敷地が狭隘であり、訓練施設も老朽化していることから、消防隊員の技術向上の面で問題がある。
- ③ 全面道路の与野停車場線は都市計画道路の決定を受けており、事業着手することになれば、さらに敷地が狭隘になる。現位置建替えにあたっては、敷地が狭隘なため、現在の消防力を維持することができない。

移転整備の経緯

平成13年5月 3市合併によりさいたま市誕生

平成15年4月 政令指定都市

平成23年8月 さいたま市消防力整備計画策定

平成25年8月 与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン庁内検討会にて、
中央消防署の今後の方向性を報告

⇒その後、まちづくりマスタープランの公共施設再編の中で
中央消防署の建設も協議することになる。

平成27年2月 国から未利用国有地の照会

平成27年4月 都市経営戦略会議により、中央消防署単独移転が承認される。

新中央消防署に配備する人員と車両

○予定人員

- ・署長 1名
- ・副署長兼管理指導課長 1名
- ・管理指導課 6名
- ・消防課(交代制勤務) 37名×2
(指揮係5名、消防係6名、指導係6名、
救急係10名、救助係10名)

○予定車両

- ・指揮車 1台
- ・水槽付き消防ポンプ自動車 1台
- ・消防ポンプ自動車 1台
- ・救急自動車 2台
- ・救助工作車 1台
- ・はしご自動車 1台
- ・資器材搬送車 1台
- ・特殊災害対応車 1台 他



指揮車



水槽付き消防ポンプ自動車



消防ポンプ自動車



救急自動車



救助工作車





はしご車



資器材搬送車



特殊災害対応車



指導車



小型搬送車



平成29年1月説明会における意見

新規計画に対する意見

- ・緊急走行時における騒音
- ・緊急車両の点検における騒音
- ・訓練時における騒音
- ・通学路と緊急車両の交差
- ・北側住宅地への日照障害
- ・浸水対策 等

工事に対する意見

- ・工事による騒音・振動
- ・家屋等への補償
- ・軟弱地盤への対応
- ・アスベスト対策 等

基本プラン作成における留意事項

- ① 北側への日影を考慮するため、建物を南側へ寄せる。
- ② 車庫前周囲には騒音対策として、樹木又は防音壁を設ける。
- ③ 車庫前の騒音対策として、吸音性のある外壁材を使用する。
- ④ 車両点検時の騒音対策として、車庫内の壁天井には吸音材を使用する。
- ⑤ 敷地南側境界に沿って、幅員2Mの歩行者専用通路を設ける。
- ⑥ 訓練時の騒音対策として、屋内訓練施設を設ける。
- ⑦ 敷地内には雨水流出抑制として、雨水貯留槽を設ける。

整備する建物等

①消防庁舎棟 鉄筋コンクリート造 2階建て 延べ面積 約2,030㎡

主な諸室:緊急車両車庫、事務室、会議研修室、仮眠室等

②屋内訓練施設 鉄骨造 3階建て 延べ面積 約1,300㎡

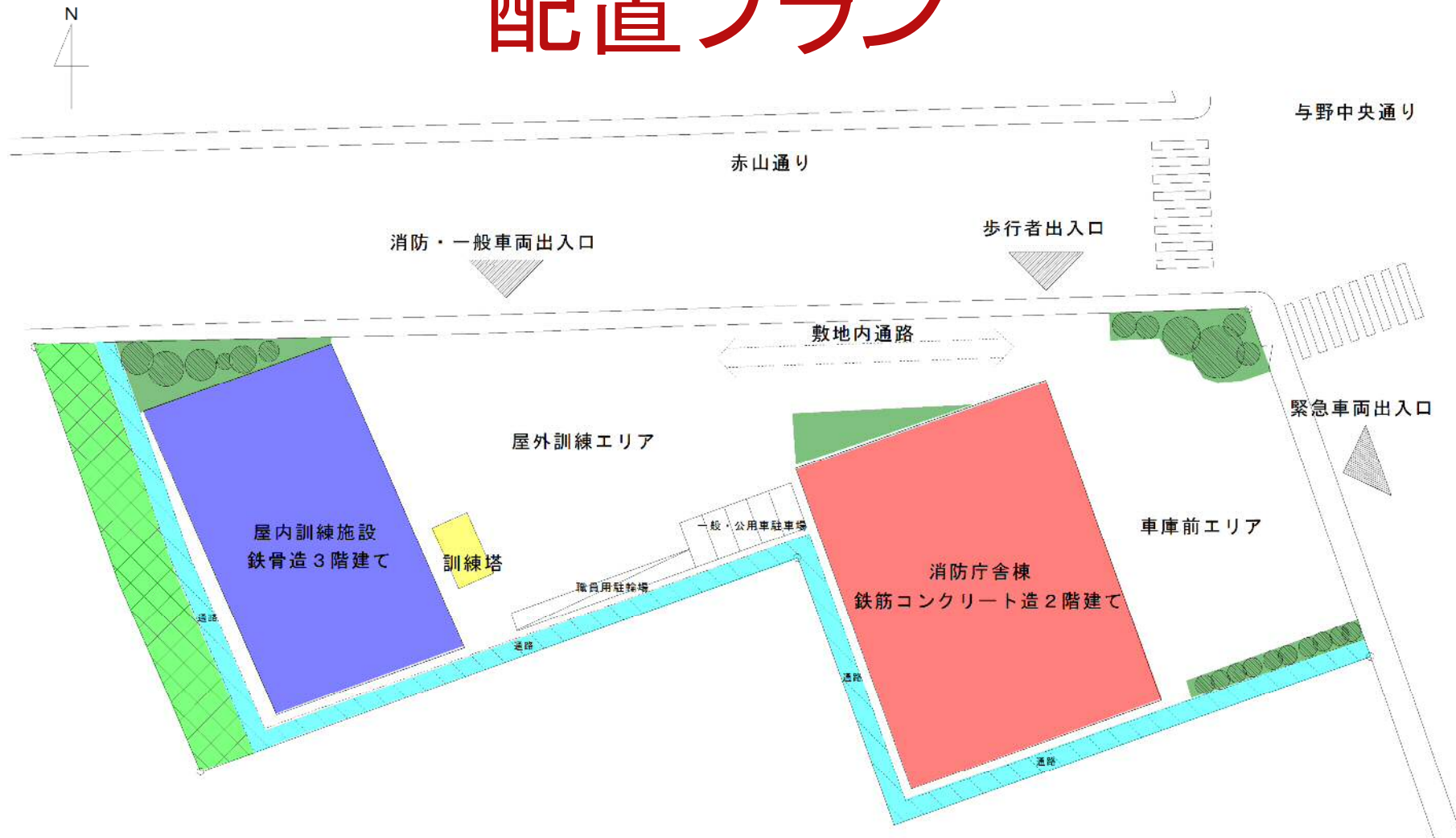
主な諸室:訓練施設、車庫、資器材倉庫等

③訓練塔 鉄骨造 5層

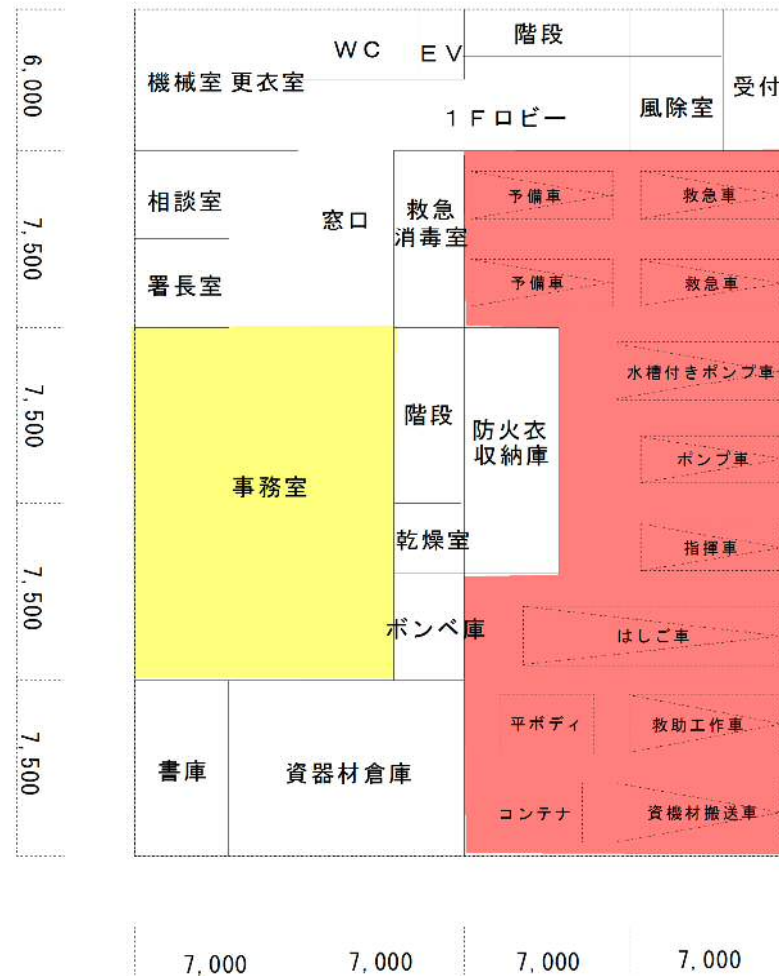
④防火水槽100トン



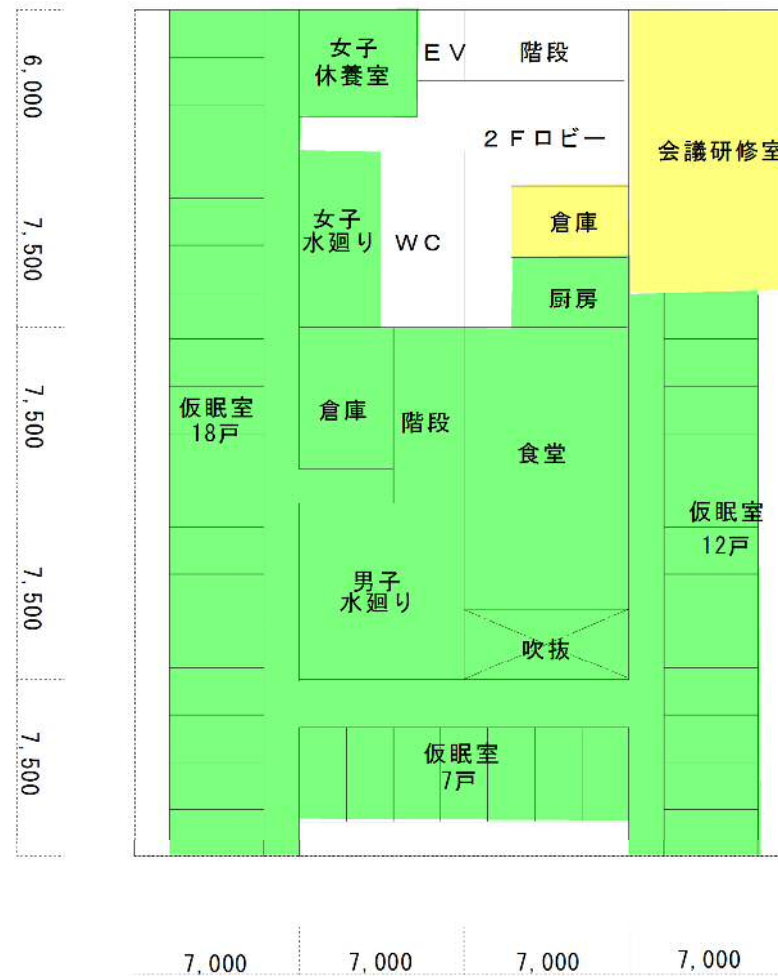
配置プラン



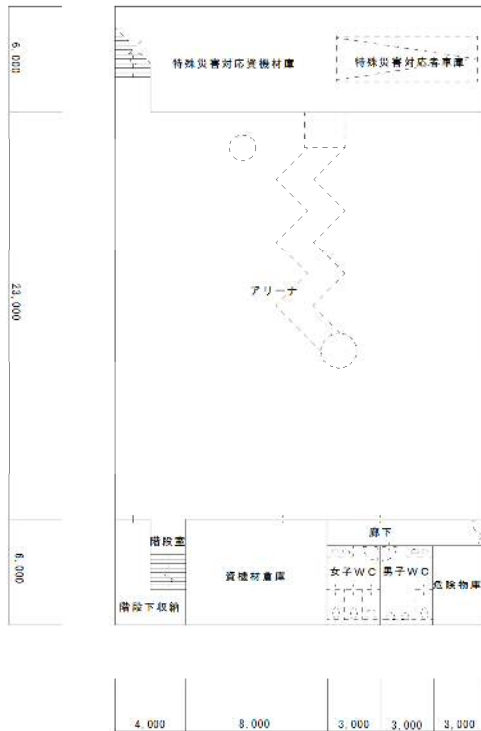
消防庁舎棟1階プラン



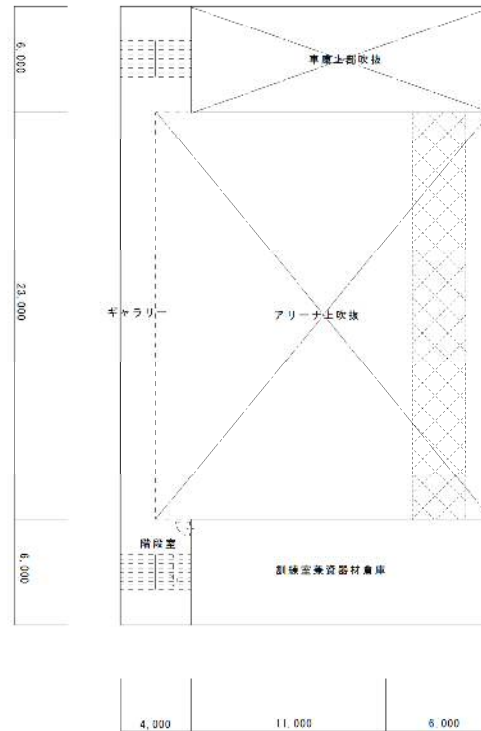
消防用庁舎棟2階プラン



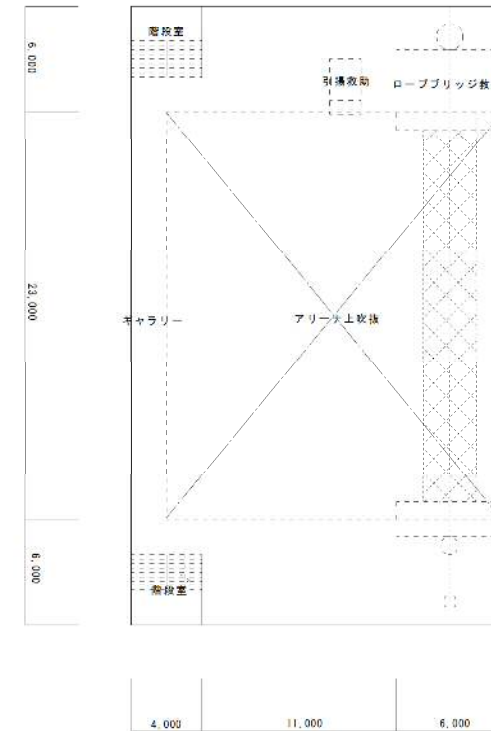
屋内訓練施設プラン



屋内訓練施設 1階平面図
床面積735.00m²
延べ面積1,305.00m²



屋内訓練施設 2階平面図
床面積172.00m²



屋内訓練施設 3階平面図
床面積298.00m²

今後のスケジュール(予定)

2018年2月上旬から2018年5月下旬 解体工事に伴う家屋等事前調査

2018年5月中旬から2019年2月下旬 移転用地既存建物解体工事

2018年5月中旬から2019年7月中旬 新中央消防署建設工事

基本・実施設計業務

2020年1月中旬から2021年6月下旬 新中央消防署建設工事

2021年(平成33年)10月 新中央消防署供用開始



ご清聴ありがとうございました。

